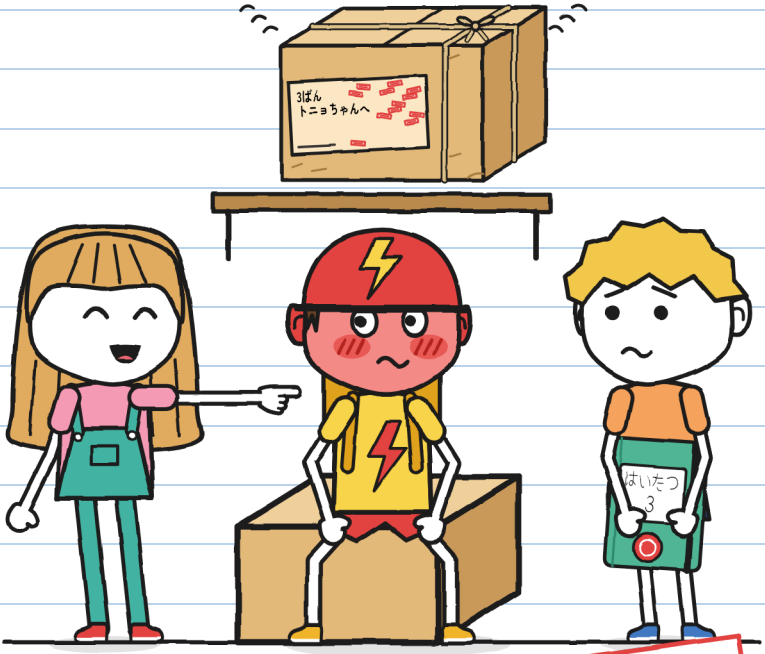
ありえない はいたつ・3

へんそう おねがい

LinguAula



（グニの ノート）

サイズ S
初級・ワ+

ありえない はいたつ ・ 3
へんそう おねがい

文と絵：LinguAula

サイズ S ・ 初級 ・ 7+

日本語版：LinguAula

初版：2026

© 2026 LinguAula · info@linguaula.com

自由にコピーして、学校でも家でも使えます。

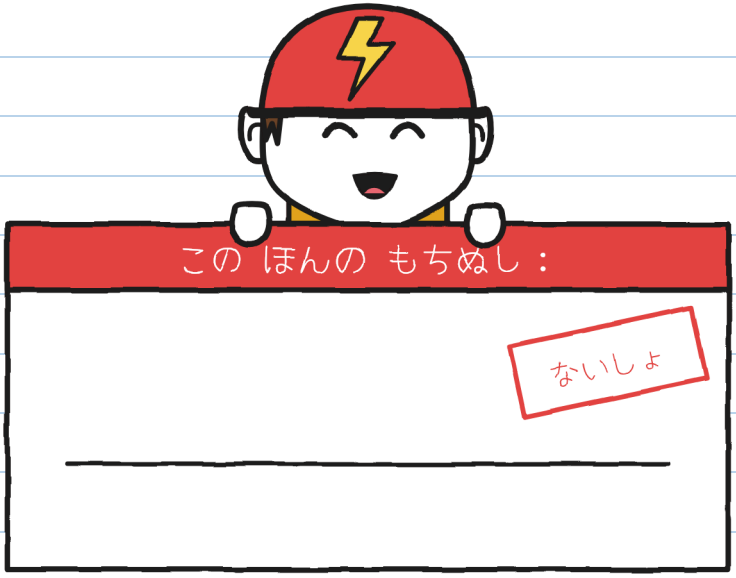
シリーズ第3作。前の2作：『このにもつは かみつく』

『かみなり前に あけるな』

LinguAula

linguaula.comで しょうごとに れんしゅう

この ほんを かいて いる あいだ、ケガを した
ひと
はいたつやさんは いない。あかく なった 人は いる。 —J.



そして さきに よむのは わたし。 —J.

みつけたら、もどして ください。おねがいします。

おはなしの なかだけ

この はんこは、おはなしの 中(なか)だけの こと。ほんものの にもつは とんで もどらない。ほんものの じてんしゃの ときは、76ページを まもって。 —J.

だれが だれ？



グニ。どようびの
はいたつやさん。だれも たのんで
いない ものを かく。この
ノートは グニの。



フリータ。みどりで かいて、
「J.」と サインする。いつも
たすけかたを しっている。それが
もんだい。

トニョ。じてんしゃで
イナズマびんの はいたつを
する。じっぷんで とどかなければ
タダ。あかく なるのは
ぶぶんごと。



マラさん。「ありえない
はいたつ」の てんしゅ。まじょの
ぼうしを かぶっている。いうより
ずっと おおくを しっている。



ゾーイ。イナズマびんの 人（ひと）。
いちばん はやい。あだなを
つける 人（ひと）。



ブルーノ。イナズマびんの 人（ひと）。
1かい パンクした。2ねん まえ。



3ばんの にもつ。うごかすと
なる。ラベルには なまえが
ひとつ だけ。

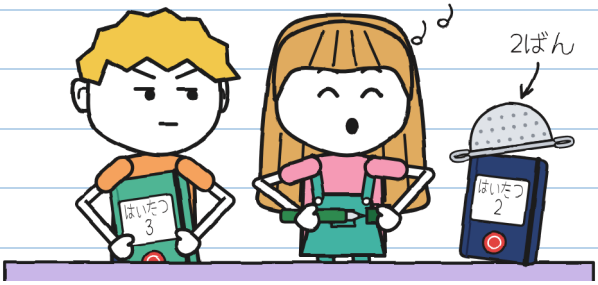


R.は、だれにも とどけられない
にもつを おくるひと。その
なまえを だれも いわない。

グニの
はいたつノート3

ないしょ。

「ないしょ」は、先(さき)に 読(よ)む こと。だれにも 言(い)わない。 —J.



ノート2は ひとつの(みせ) あらしで おわった。これは みどりで、店の はんこも ある。ぼくが さきに つかう つもりだった。つかったのは フリータ。

たすける ために 先(さき)に つかった。どういたしまして。 —J.

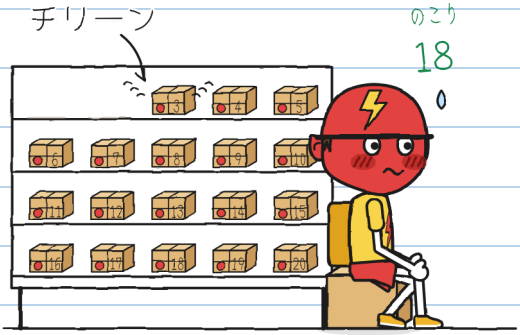
ぼくは たのんで ない。でも フリータには かんけい ない。

だい1章

チリーン

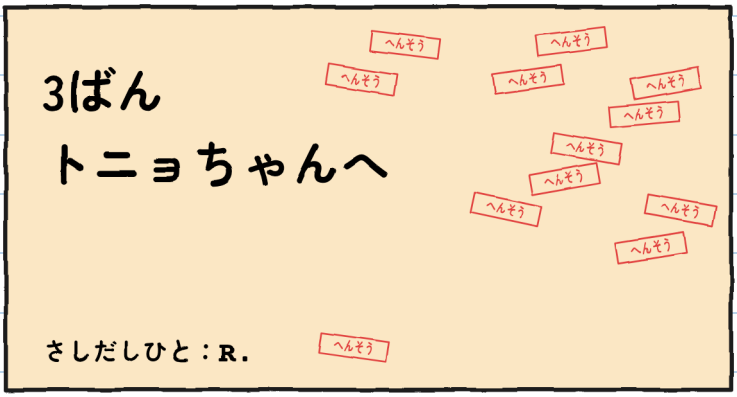
マラさんは、だれも とどけられなかった にもつを 店に
しまって いる。20こ あった。フリータと ぼくは、
たまごと たねを とどけた。のこりは 18こ。

あらしの 夜、ぼくたちは もう うちへ かえる
ところだった。にもつが ひとつ なった。
チリーン。



3ばんだった。イナズマびんの トニョは、
じっぷんで とどかなければ タダ。ヘルメットと 同じ
色に なった。

サインが なければ、へんそうの にもつは 夜明(よあ)けに
たなへ とんで もどる。サインして いいのは、にもつを
うけとる 人(ひと)だけ。ラベルに、きえない インクで。R.は
さしだし人(にん)。にもつを おくる 人(ひと)の こと。

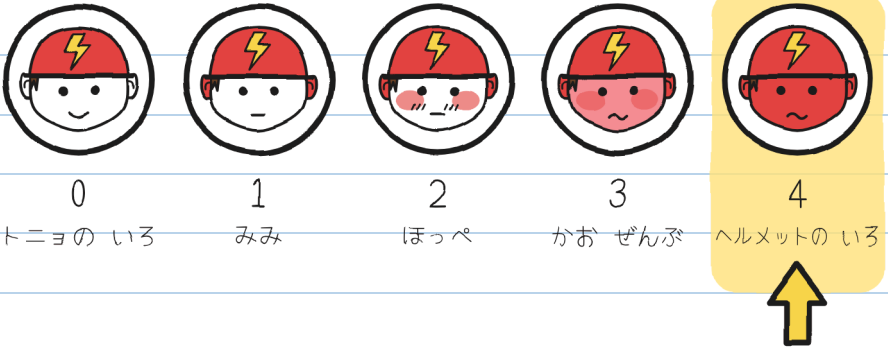


フリータは ラベルを よみはじめた：
「トニョちゃ……」
フリータは 口(くち)を とじた。フリータは ことばの
とちゅうで だまる ことは ない。ぼくは トニョを
見(み)た。あかく なって きて いた。

ことばを はんぶん よんだ。あとの
はんぶんは のみこんだ。 —J.

きゅうに まっかに なる 人も いる。トニョは ちがう。
ぶぶんごとに あかく なる。ぼくは メモした。

トニョの あかメーター



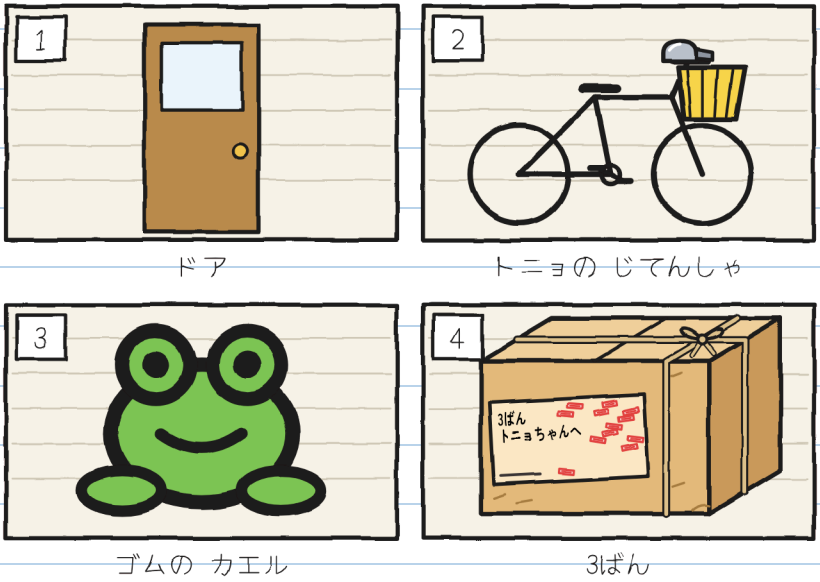
「その にもつは まてる」と トニョは 早口で いった。
「なんねんも まって いる。あと 一日。それとも
十日。イナズマびんは いそがない」
イナズマびんの 人が そんな ことを いうのは
はじめて だった。

その 夜：4。あかで かきたい。でも みどりしか ない。 —J.

「こんやは なにも あけない」と マラさんは いった。
「それに、たなには きょかなしで さわらない」
だれも さわらなかった。また チリーンが なった。
チリーン。
「いまの、ドアの おとだよ！」と フリータは いった。

わからない ことが あると、ぼくは リストを つくる。

チリーンの ようぎしゃ



ドア　トニョの じてんしゃ

ゴムの カエル　3ばん

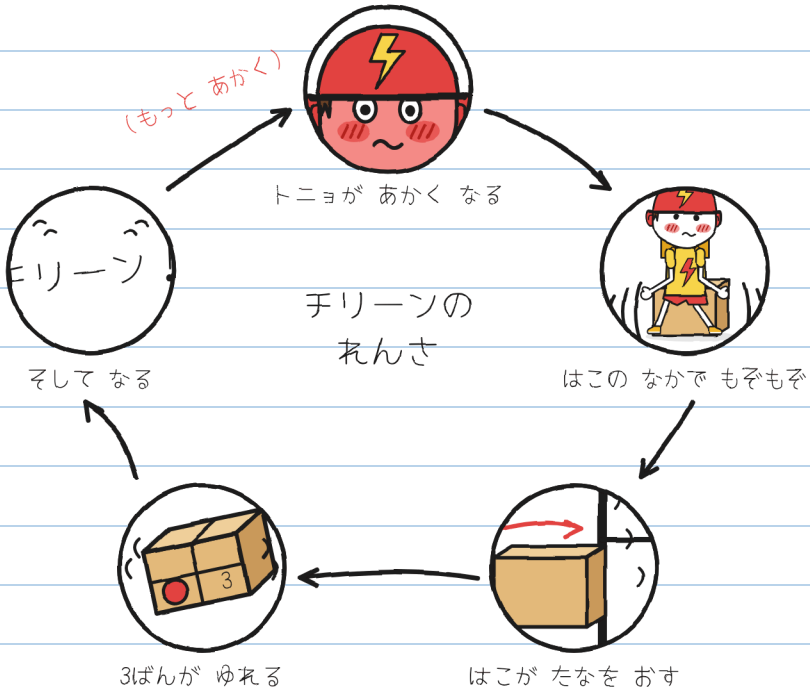
カエルは わるくない。わたし、しってる から。 —J.

ぼくは おとを ためしに 外(そと)へ 出(で)た。もう 雨(あめ)は ふって いない。
ドアを あけて しめた：ギィー。じてんしゃの ベルを ならした：リンリン！　カエルを おした：キュッ。



フリータは ゆびを ふって「ちがう」と いって いた。
どれも こんな おとじゃ ない。
ぼくは 中(なか)に はいった。トニョが はこに すわった まま もぞもぞ した。
チリーン。

ぼくは しゃがんだ。トニョの はこが、たなの 足(あし)に
くっついて いた。



まほうじゃ ない。トニョだった。
3ばんを うごかすと、なかで なにかが なる。

わたしと 同(おな)じ。 ーJ.

トニョは じっと して いる ことに きめた。

つづいたのは これだけ：

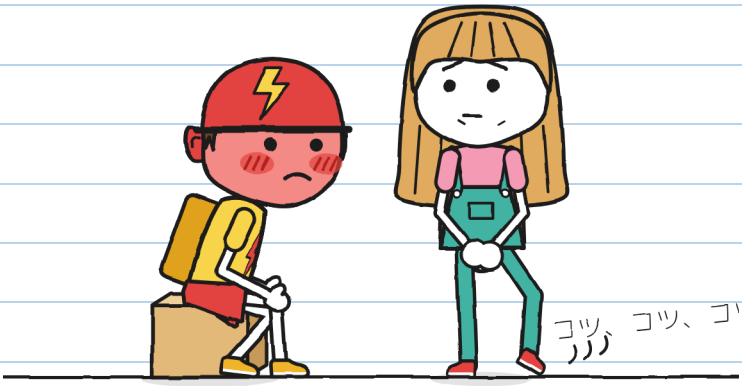


ただ きいただけ。きいただけで、たなは おせない。 —J.

この ひとことは おした。

「ぼくの ことだ」と トニョは スニーカーを 見ながら
いった。「ちいさい ころの」
とても ちいさな こえだった。カエルの ほうが
ぼくより よく きこえた はずだ。

フリータは 口を あけた。しつもんが たくさん
あった。トニョは まだ スニーカーを 見て いる。
フリータは トニョを 見て、口を とじた。

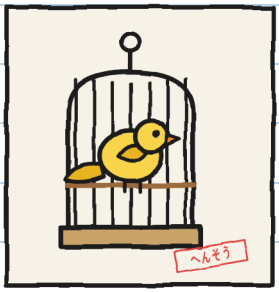


「もう きかない」と フリータは いった。
むずかしかった。足が ゆれて いた。

しなかった しつもんは 9こ。ぜんぶ メモして ある。 —J.

「どうして いちども とどけなかったの？」と ぼくは
マラさんに きいた。
「12かい もって いった。ラベルを 見(み)て ごらん。
みちも、ばんちも、みょうじも ない。トニョちゃんは
みつけた かぎり ぜんぶ ためした」

マラさんの トニョちゃんたち



1. カナリア。
（ラベルを ふんだ。ダメ。）



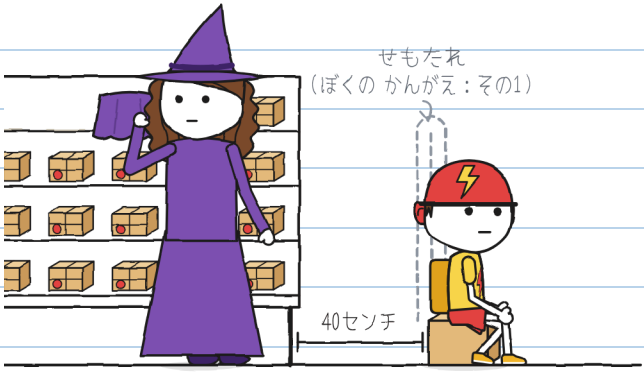
2. アントニオさん、71さい。
（「そうだと いいんだけどね」）



3. うんがの ボート。
（てが ない。）

「トニョは？」と フリータが きいた。
「この まえは まだ トニョを しらなかった」と
マラさんは トニョを 見(み)て いった。「ちいさい ころの
なまえは、だれも おしえて くれなかった」

マラさんは　カウンターの　下から　むらさきの
ぬのを　だして、3ばんに　かけた。ねる　ときの
オウムの　かごみたいに。トニョの　はこを　たなから
40センチ　はなした。
「これで　いい。もう　うごいても　いいよ」



トニョは　じてんしゃで　かえれた。ドアの　ところに
ある。10ぷんで　まちを　よこぎれる。
トニョは　また　すわった。
どうしてか　わからない。でも　かいて　おく。トニョの
はこには　せなかを　あずける　せもたれが　ない。ぼくが
かいて　あげた。

だれも　きみに　せもたれを　たのんで　ない。　—J.

店を しめる とき、トニョが さいごに のこって いた。
ヘルメットを とめて いた。
「マラさん。あした にもつの ことで はなしに くる。
ほかの 人に きかれない ところで」
「この ふたりは 店の 人だよ」
トニョは ぼくたちを 見た。
「この ふたりは いい。でも イナズマびんの
人は だめだ」



にもつは トニョあて だった。あとは トニョが
ほしいか どうか だ。

わたしは もう たすけかたを しってる。 —J.

それが しんぱいなんだ。

ひとつの おはなし、むっつの サイズ

サイズは 六つ あって、3さいから 16さいまで。ことばは 20いじょう。**XXS**、**XS**、**S**、**M**、**L**は ページも 絵も おなじ。**XL**は しょうせつ。ちがうのは 話し方だけ。

サイズ XXS · PRE-A1
マラさんと トニョが わらう。 あかい じてんしゃが みえる？

サイズ XS · A1
マラさんは わらいそうに なった。トニョも わらった。どようびから ずっと わらって いなかった。

サイズ S · A2
マラさんが ふっと おとを たてた。ほとんど わらいだった。トニョも わらった。土曜日から トニョが わらうのを 見て いなかった。

サイズ M · B1
マラさんが音をたてた。笑い声みたいだった。トニョも笑った。土曜日から、トニョが笑うのを見ていなかった。

サイズ L · B2
マラさんが、ほかの人だったら笑い声になるような音をたてた。トニョも笑った。土曜日から、トニョが笑うのを見ていなかった。

サイズ XL · B2-C1
イラスト小説 · 13+
CEFRのレベルは目安です。

どのサイズも、同じチリーン。 —J.

おうちの ひとと せんせいへ
linguaula.comで しょうごとに れんしゅう